

科目名	在宅看護概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	統合分野		講義		1	1年 後期	
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務 経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅看護の概念と変遷、展望を知り、在宅で療養する対象を理解し、在宅における看護の基礎を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアにおける在宅看護の特徴・役割を説明できる。 2. 家族形態に応じた在宅療養者の家族への支援の必要性を説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の背景 在宅看護の基盤 2. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 3. 在宅看護を展開するための基本理念 在宅看護における倫理 4. 在宅看護の対象者 5. 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 6. 在宅療養の場における家族のとらえ 7. 在宅療養者の家族への看護 8. 終講テスト・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 21 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>							
<p>参考書</p> <p>杉本正子他 「在宅看護論」 廣川書店 松野かほる他 「在宅看護論」 医学書院</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況などにより評価する。</p>							

科目名	在宅看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	2年 後期	
区分	統合分野						
担当者	加藤朋子	資格	保健師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅ケアが実施される場と活動の特性を理解し、在宅で療養する対象(家族サービス)に訪問看護を実施するための展開方法を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種連携・地域連携の意味が理解できる。 2. 介護保険制度の目的と要介護認定と介護サービス計画、サービス内容、介護報酬の概要を説明できる。 3. 身体障害者・知的障害者・精神障害者、難病患者、子どもを支援する制度について説明できる。 							
<p>授業概要 (授業計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムとは 療養の場の移行に伴う看護 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 在宅看護におけるケースマネジメント 2. 社会資源の活用 医療保険制度 後期高齢者医療制度 3. 介護保険制度 4. 生活保護制度 障害者に関連する法律 5. 難病法 6. 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 7. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 高齢者施策 8. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 21 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>							
<p>参考書</p> <p>杉本正子他 「在宅看護論」 廣川書店 松野かほる他 「在宅看護論」 医学書院</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況などにより評価する。</p>							

科目名	在宅看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	2年 前期	
区分	統合分野						
担当者	瀧本広美	資格	保健師	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅看護の対象者のニーズにもとづく生活支援を理解し、対象に必要な技術を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションの設置、運営、従事者、対象者、サービスと利用までの流れを説明できる。 2. 療養者・家族への災害準備期の支援と多職種連携について理解できる。 3. 在宅での日常生活援助ならびに医療的ケアにおいて、アセスメントや援助技術の基本を学ぶことができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護サービスの展開 3. 訪問看護の記録 4. 在宅看護における危機管理 5. 日常生活における安全管理 6. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 7. 生活ケアと医療的ケア 8. 生活ケアの援助技術 9. 医療的ケアの援助技術 10. } 1) 服薬管理 11. } 2) 化学療法、放射線療法 12. } 3) 在宅酸素療法 13. } 4) 在宅人工呼吸療法 14. } 5) 膀胱留置カテーテル 6) ストーマ 7) 在宅経管栄養法 8) 在宅中心静脈栄養法 9) 良肢位の保持と褥瘡予防 15. 中間・終講テスト、まとめ <p style="text-align: right;">※DVD含む</p>							
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 21 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>							
<p>参考書</p> <p>杉本正子他 「在宅看護論」 廣川書店 松野かほる他 「在宅看護論」 医学書院 岡崎美智子他 「在宅看護技術」 メヂカルフレンド社</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況などにより評価する。</p>							

科目名	在宅看護方法論Ⅲ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	2年 後期	
区分	統合分野						
担当者	渡部康子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅看護の事例演習を通して、対象者の状況に応じた看護の方法を考える。 在宅における援助技術の演習を行う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅での日常生活援助ならびに医療的ケアにおいて、アセスメントや援助技術の基本を学び実践することができる。 2. 事例の症状や病態、療養生活の課題を説明できる。 3. 事例の日常生活行動の自立を促すための支援を考えることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活ケアと医療的ケア 2. 生活ケアの援助技術 3. コミュニケーション技術 4. } 医療的ケアの援助技術 5. } 1) 経管栄養 6. } 2) 中心静脈栄養法 6. } 3) 留置カテーテルの管理 6. } 4) 在宅酸素療法 6. } 5) ストーマケア 6. } 6) 摘便 7. } } 8. } 看護過程の展開演習 9. } グループワーク ・発表 10. } } 11. } 訪問看護 演習 12. } } 13. } 事例 COPD 14. } 在宅酸素療法の援助方法 15. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 21 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>							
<p>参考書</p> <p>岡崎美智子他 「在宅看護技術」 メヂカルフレンド社</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>演習（技術・看護過程）、出席状況、課題などにより評価する。</p>							

科目名	看護管理 (国際看護含む)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	3年 後期
区分	統合分野						
担当者	山台和子	資格	元看護教員	実務経験	(有)・無	時間	22 / 30時間
担当者	相坂秀子	資格	看護管理 認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	4 / 30時間
担当者	川本光善	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	1 / 30時間
担当者	和田かおり	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	1 / 30時間
担当者	藤井克匡	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	1 / 30時間
担当者	田中貴大	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	1 / 30時間

授業の目的・ねらい

看護の役割を推進するためのシステムと、専門職としての看護の社会的責任および関わりについて学ぶ。

また、国際看護として、その理念や国際協力の組織や仕組みについて学ぶ。

特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有する認定看護師が、保健医療及び福祉の現場でどのような役割を担い活動を行っているか学ぶ。

学生の到達目標

1. 管理の意義と看護管理過程について説明できる。
2. 病院や看護部門における看護管理について説明できる。
3. リーダーシップについて説明できる。
4. 看護管理の今日的課題について説明できる。
5. 看護制度・看護行政と看護活動について説明できる。
6. 看護の国際協力における組織やしぐみについて説明できる。
7. 看護の活動領域について理解し、説明できる。

授業概要 (授業計画)

<山台和子>

1. 管理の概念、病院と看護部門の基本的成り立ち
2. 看護部門の基本的役割
3. 各看護単位での看護管理
4. スタッフナースに求められる管理的役割
5. 看護管理の今日的課題
6. 看護制度・看護行政と看護活動、看護職の養成と看護制度
7. 国際看護の理念
8. 看護の国際協力の組織、しぐみ
9. 異文化の理解
10. 国際看護活動の展開
11. 筆記試験・まとめ

<相坂秀子>

1. 看護をめぐる制度と政策
2. 看護制度、看護政策
看護サービスと経済のしぐみ
看護の人員配置基準と看護サービスの評価

<田中貴大>

1. 慢性呼吸器疾患看護認定看護師の役割と活動内容

<藤井克匡>

2. 感染管理認定看護師の役割と活動内容

<川本光善>

3. 救急看護認定看護師の役割と活動内容

<和田かおり>

4. 緩和ケア認定看護師の役割と活動内容

教科書

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院
新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 メヂカルフレンド社
国民衛生の動向

参考書

系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院

成績評価方法

終講試験、レポート、演習・授業態度等により評価する。

科目名	災害看護	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	3年 後期	
区分	統合分野						
担当者	藤原 春菜	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、社会における看護の役割を果たすために必要な災害看護の知識と災害各期の看護活動を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害及び災害看護の定義と災害に関する基礎的な知識について理解できる。 2. 災害に関連する制度と災害発生時の支援体制について理解できる。 3. 災害時の医療・看護活動の場に応じた看護活動について理解できる。 4. 災害サイクル各期に応じた要配慮者への支援と看護について理解できる。 5. 被災者および支援者のストレスとその対応（こころのケア）について理解できる。 6. 災害発生時に必要な救出・トリアージ・搬送・応急処置の基本的な技術を体験的に修得で 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の歴史 災害・災害看護の概念、定義 災害サイクル 災害の種類と被害の特徴 2. 災害に関する法、制度 法制度、支援体制・システム 減災・防災マネジメント 3. 災害各期における看護活動① 病院、医療救護所、避難所における看護活動 応急処置・保健衛生管理・感染対策、二次健康障害の予防 4. 災害各期における看護活動② 仮設住宅、復興住宅における看護活動 保健衛生管理・感染対策、二次健康障害の予防 5. 災害各期における看護活動③ 要配慮者への支援と看護 6. 被災者および支援者のストレスとその対応・こころのケア 7. 災害発生時に必要な技術：救出・トリアージ・搬送・応急処置 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>小原真理子他編 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂 山崎達枝 災害現場でのトリアージと応急処置 日本看護協会出版 三澤寿美他編 看護学テキスト 統合と実践 災害看護 学研メディカル秀潤社 酒井明子他編 災害看護 看護の専門知識を統合して実践につなげる 南江堂 小井戸雄一他編 看護の統合と実践② 災害看護学 メヂカルフレンド社 その他 授業で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験80% レポート10% 演習への参加度10%とし、総合的に評価する。</p>							

科目名	医療安全	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	3年 後期
区分	統合分野						
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	17 / 30時間
担当者	三浦柳子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	13 / 30時間

授業の目的・ねらい

人間の尊重と生命の安全を守る看護師として、必要とされる基本的知識、技術、態度を養う。
ここでは、日常の看護で発生しやすい医療事故について認識し、必要な安全対策についての基本的な知識について学習する。特に判断力と実践力が高まるように学習を進める。

学生の到達目標

1. 安全な医療を提供するために必要な知識と技術、考え方を理解できる。
2. 医療事故の現状を理解し、必要な対応（自己防止・発生時の対応）を考えることができる。
3. 医療事故に伴う看護職の法的責任について理解する。
4. 看護者の倫理的態度について考え、よりよい行動を考えることができる。

授業概要（授業計画）

<越智恵美子>

1. ガイダンス
医療におけるリスクマネジメント
2. リスクマネジメントの考え方
医療安全における看護師の役割
3. ヒューマンエラーとは、エラーの種類
ヒューマンエラーと違反
4. 事故防止のための知識と技術（起こりやすい事故への対応）
5. K Y T（危険予知トレーニング）の演習
6. 組織としての医療安全対策
看護場面における倫理的行動
7. 医療安全管理の組織体制
8. 医療事故に伴う看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度
インシデントレポートの書き方
9. 筆記試験・まとめ

<三浦柳子>

1. 看護師が関与した医療事故やヒヤリハット
インシデントの種類による医療安全対策
患者誤認
2. 基本的日常生活援助に関連するエラー
(1) 転倒・転落
3. (2) 入浴・清拭・足浴、温罨法
(3) 誤嚥
4. (1) 与薬
(2) インスリン製剤投与
(3) 輸液ポンプとシリンジポンプ
5. (4) がん化学療法
(5) 輸血
(6) 経管栄養
(7) 人工呼吸器の関連
(8) ライン・チューブ・カテーテル関連
6. (9) グリセリン浣腸
7. 筆記試験・まとめ

教科書

新体系看護学全書 看護の統合と統合と実践（1）看護実践マネージメント
医療安全 メヂカルフレンド社

参考書

小林美里編 看護学テキスト Basic & Practice 統合と実践 医療安全 G a k k e n
石川雅彦・斎藤奈緒美
リスクアセスメント力が身につく実践的医療安全トレーニング 医学書院

成績評価方法

終講試験、レポート、演習・授業態度等により評価する。

科目名	統合技術演習	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			1	3年 後期
区分	統合分野						
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	10 / 30時間
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	5 / 30時間
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>臨床に近い状況での演習を通して、知識と技術を統合して体験することで、卒業後に安全で確実な技術が実践できることを目指す。</p> <p>特に、卒業後の臨床では、多重課題が課せられるため、このような状況において、その状況を瞬時に判断し、看護の優先順位を冷静に考え、適切な行動がとれるように学習する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の補助技術の基本的技術を習得し、モデルを使用して実施できる。 2. 演習を通して、複合的な条件の事例に必要な看護を実践できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><木谷有紀> 検査に関する看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 静脈血採血の実施方法、根拠、留意点 2. デモンストレーション 3. 技術演習・振り返り <p><三上香住> 与薬に関する看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 点滴静脈内注射の実施方法、根拠、留意点 3. 輸液ポンプの基本的操作 - 外部講師による説明(講義・演習) 4. デモンストレーション 5. 技術演習・振り返り <p>呼吸・循環を整える看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 口腔内・鼻腔内吸引、期間内吸引の実施方法、根拠、留意点 7. デモンストレーション 8. 技術演習・振り返り <p><越智恵美子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 多重課題の危険性、多重課題の発生時の対応の原則 - DVD視聴 3. 演習事例課題説明・グループワーク 4. } 複数患者の多重課題演習 5. } リフレクション 							
<p>教科書</p> <p>各専門領域で学習した教科書、技術、プリント 新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全</p>							
<p>参考書</p> <p>随時紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>演習項目について、別紙評価表に基づき評価する。 課題レポート提出状況、授業態度も加味する。</p>							

科目名	在宅看護論実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	3年 通年	
区分	統合分野						
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務経験	有・無	時間	
担当者	山台和子	資格	元看護教員	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>地域で生活している高齢者や難病等の療養者とその家族の特性とニーズを理解し、その人らしく生きるための生活支援と看護援助の実際について学ぶ。また、生活している地域の環境や社会資源、保健・医療・福祉の関係職種との協働連携の実際と地域包括ケアにおける看護職の役割について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象者とその家族の生活が理解できる。 2. 様々な在宅看護の対象者とその家族への支援方法について理解できる。 3. 在宅看護の対象者に必要な援助を指導者と共に実施できる。 4. 社会資源の利用状況を把握し、どのような保健・医療・福祉サービスが在宅看護を支援しているかを理解できる。 5. 地域で生活する人々の健康増進・疾病予防を目的とした保健活動について理解できる。 6. 医療従事者と他職種との連携と継続看護の実際について理解できる。 7. 在宅看護に対する自己の看護観と課題を明確にできる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護とは何か（在宅看護の定義）想起する。 2. 在宅の理解（施設内看護での発達段階別看護を基本とする）想起する。 3. 在宅での特殊な技術について想起する。 4. 在宅看護の基盤となる法律、施策についてレポート提出する。 5. 在宅看護とは何か（在宅看護の定義）想起する。 6. 公衆衛生活動の組織、機構の概要について 7. 今治市の事業概要を基に学習する。 8. 透析療法について学習（主に血液透析を受ける患者の看護） 9. 腎の構造と機能および腎不全について <p>< 訪問看護 > 37.5時間</p> <p>実習場所</p> <p>ひうち園老人訪問看護ステーション 第一訪問看護ステーションかとれあ 済生会今治訪問看護ステーション 訪問看護ステーション医師会</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の家庭訪問に同行し、在宅療養者と家族の生活の実際を見学する。 2. 在宅看護技術は、介助または見学により学ぶ。 3. 1事例の療養者について、訪問前後に情報収集し記録にまとめる。 4. 在宅ケアチームにおける多職種との協働の実際を見学により学ぶ。 5. 施設内看護と地域看護との連携の実際を理解する。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							

< 保健センター> 41. 5時間

実習場所

今治市保健センター

実習内容

1. 保健衛生行政システムと具体的事業とその背景にある法的根拠や目的を理解する。
2. 保健師の活動に同行し、地域住民に対する健康の保持・増進・疾病予防の実際を理解する。
3. 健康相談、健康教育、健康診査、家庭訪問、地域組織活動の概要を理解する。

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

< 透析外来> 7. 5時間

実習場所

済生会今治病院

放射線第一病院

あゆみクリニック

実習内容(見学実習)

1. 看護師と一緒に行動し、透析室の看護の流れ、対象者への関わりを学ぶ。
(観察項目・方法、苦痛の緩和 等)
2. 良い状態で透析治療を受けるための在宅での自己管理指導の実際を学ぶ。
3. 関連職種との連携について見学し学ぶ。

カンファレンス

指導者参加の反省会を実施する。

< 施設見学> 3. 5時間

実習場所

社会福祉協議会

実習内容(見学実習)

1. 社会資源の活用について理解する。
2. 地域社会の推進を図るための事業の概要とその活動を知る。

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
訪問看護(60%)、保健センター(40%)に評価し、合計点を成績とする。

科目名	統合実習	必修・選択		授業形態		単位数	開講時期
				演習		2	3年 後期
区分	統合分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	90時間
担当者	渡部康子	資格	看護教員 保健師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	
担当者	井上末美	資格	看護師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	
授業の目的・ねらい 病棟管理や看護専門職としての役割を理解し、既習の知識・技術・態度を統合し、看護チームの一員としての体験、複数患者への援助を通して、看護実践能力を身につける。							
学生の到達目標 1. 組織の一員としての病棟師長（看護長）の役割を理解し、見学をとおして看護管理の実際について理解できる。 2. 看護チームの一員としてチームリーダーおよびチームメンバーの役割を理解できる。 3. 複数の患者に関わり、ケアの優先順位の判断や時間管理を経験することで、複数の患者の状況に応じた看護の実際を理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として協働できる。 5. 看護師となるための責任と義務を果たす行動をとることができる。 6. 統合実習を通して、看護師となるための倫理観を培うことができ自己の課題を明確にできる。							
授業概要（授業計画） 事前学習 1. 実習病棟の主な疾患・治療・検査・看護については既習の知識を復習しておく。 2. 実習施設の病院および看護部の概要について施設オリエンテーションの資料を基にレポートする。 3. 看護管理の概要、看護方式の種類についてレポートする。 実習場所 愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院 実習内容 1. 看護管理について、病棟師長（看護長）より説明を受け、1日同行実習をする。 2. チームリーダーと共に行動し、リーダーの役割を理解する。 3. チームメンバーの一員として看護の流れを把握し、看護を見学および実施する。 4. 学生が受け持った患者を担当している看護師と行動し、複数の患者への看護を看護師とともに実施する。 5. 受け持ち患者の状況を総合的に情報収集し、計画に沿った援助を実施しながら、看護師と時間調整しながら同行する。 6. 複数の患者に関わり、ケアの優先順位の判断や時間管理を経験する。 7. 看護チームの一員として担当看護師、チームリーダーに報告・連絡・相談を実施する。 8. 日勤者から夜勤者への患者の情報伝達を見学、実施する。							
教科書							
参考書							
成績評価方法 実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。							